

きずな

7月号（文月）

赤磐市立山陽東小学校

「こそだては まつれんしゅう」

ある講演会で、長谷川満さんの詩を紹介していただいたことがあります。詩の一節にあったのが、この言葉でした。ほかにも「じんせいは わらうれんしゅう」というすてきな言葉もあって、こういう風に毎日を過ごしたいと感じたことを覚えています。学校教育も同じで、先生の指示で活動や学習をするだけではなく、あるときには子どもたちが自分で考える力を付けるために、指示を少なくして、子どもたちがやり切るのを待つことがあります。しかし、「待つ」ことは、かなり難しいことです。時間がないときには声をかけたくなるし、失敗をしそうになったら、思わず手を出して、手伝いをしたくなります。「こそだては まつれんしゅう」とは、子どもに接するすべての大人が何かを感じる言葉なのだと思います。

6月に入ってから、4年生が2日間（6月15～16日）の閑谷研修に、5年生が4日間（6月20日～23日）の渋川研修に出かけました。いずれの学年も天候に恵まれ、予定していたすべての活動を実施することができたのですが、そのときに「こそだては まつれんしゅう」を実感する出来事がありました。

まずは、4年生の閑谷研修での出来事です。スコアオリエンテーリングで、子どもたちはグループに分かれて、山の中にあるポイントを回ります。ポイントの選び方も自由で、自分たちで考えて活動をします。順調にスタートしましたが、意見がぶつかったり、途中で歩き疲れたりして、子どもたちが困る状況が次々と起こりました。引率の先生方は、安全を確認するだけで、何も言いません。子どもたちはグループの意見をまとめ、疲れている友達の水筒を持ち、お互いに声をかけあいながら、全員が無事にゴールすることができました。

5年生の渋川研修では、3日目に、子どもたちの力だけでカッターをこぎ、無人島を目指すという活動がありました。全員の力がそろわないと、カッターは前には進みません。手にまめができて痛くてたまらなくても、船が揺れても、自分たちの力で進めないといけないのです。引率の先生方は見守るだけです。渋川の指導の先生方も、最初は厳しく指導をしてくださいましたが、船が進み出すと子どもたちの姿を見守っています。カッターをこぐのが2回目だったとはいえ、子どもたちには大変な活動だったはずですが、無人島に到着したときの子どもたちの達成感に満ちた顔は、本当に輝いていました。

子どもたちが、自分たちで考えてつかみ取ったものは、はっきりと形にはならないけれど、とても大きな大切なものだったに違いありません。見守っていた私たちが驚くようなすばらしい姿を、成長を、子どもたちは見せてくれました。

7月になりました。早いもので、1学期もあと3週間足らずです。学校では、今までの自分の成長を振り返りつつ、学習のまとめをしっかりとしていきます。体調管理が難しい時期でもありますので、ご家庭での支援を、引き続きよろしく願いいたします。

（石原 順子）

毎月第三日曜日は「家庭の日」 -7月は、7月16日です-

家族で過ごす時間が、楽しく充実したものになるといいですね。